

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年9月期3Q	4,370,900株	27年9月期	4,370,900株
② 期末自己株式数	28年9月期3Q	33株	27年9月期	33株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年9月期3Q	4,370,867株	27年9月期3Q	4,370,867株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続の実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるモバイルインターネットを取り巻く環境としては、モバイル通信サービスの多様化が進み、スマートフォン利用者の増加傾向が続いております。

当社の事業領域であるスマートフォンを利用したコンテンツ市場においてはスマートフォンの普及に伴い拡大傾向にあり、今後も引き続き拡大していくことが予想されます。その一方で、モバイルゲーム事業では大手家庭用ゲームメーカー各社の参入が進み、広告事業では新たな広告配信モデルが次々と誕生するなど、競争の激化がますます進んでおります。

このような市場環境の下、当社は「次代を担う新たなコアサービスの創出」を当連結会計年度の事業戦略に掲げて取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,257,920千円（前年同期比4.2%減）、営業利益10,616千円（前年同期は24,611千円の営業損失）、経常利益5,023千円（前年同期は30,070千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失11,684千円（前年同期は53,900千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各セグメントの業績は、次の通りであります。

(モバイルゲーム事業)

モバイルゲーム事業につきましては、今まで注力してきた初の自社IP自社配信の「ワールドクロスサーガ -時と少女と鏡の扉-」が平成28年4月15日にサービス開始し、売上に寄与いたしました。また、「キングダム-英雄の系譜-」を始めとした既存タイトルでは各種イベントの実施により売上を伸ばしました。そのため四半期における過去最高水準のセグメント売上を達成し、前年同期比でセグメント利益が向上いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,033,218千円（前年同期比9.9%減）、セグメント利益は115,833千円（前年同期比31.0%増）となりました。

(広告事業)

広告事業につきましては、四半期における過去最高の売上を達成いたしました。主な要因としては主力サービスであるスマートフォン向けアドネットワーク「ADroute」において第2四半期会計期間から引き続き機能拡充及び顧客数拡大に注力した結果、過去最高の月間売上を再度更新していることが挙げられます。また、新たなブランド体験を実現する広告サービス「BRAND SCREEN」においては他社との協業を通じて広告表現の幅を広げ、案件の獲得に注力してきたことが挙げられます。

以上の結果、当セグメントの売上高は986,345千円（前年同期比9.0%増）、セグメント利益は22,365千円（前年同期比52.5%減）となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業につきましては、キャリアプラットフォームを対象としたサービス売上に関して漸減傾向が続いております。今後の新たな売上獲得を目指し、スマートフォン向けサービスの拡充に努めました。

以上の結果、当セグメントの売上高は239,560千円（前年同期比21.7%減）、セグメント利益は28,567千円（前年同期比173.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、売掛金が12,315千円、のれんが37,496千円減少したものの、現金及び預金が416,158千円、その他流動資産が196,777千円増加したこと等により前期末に比べて686,836千円増加し、2,581,209千円となりました。

負債については、短期借入金が40,000千円、未払法人税等が29,823千円減少したものの、買掛金が22,808千円、1年内返済予定を含む長期借入金689,000千円増加したこと等により前期末に比べて697,329千円増加し、1,087,726千円となりました。

純資産については、非支配株主持分が5,875千円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと等により、前期末に比べて10,493千円減少し、1,493,483千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高に関しては第3四半期会計期間に比べて増加することを見込んでおります。要因としてはモバイルゲーム事業において、「ワールドクロスサガ -時と少女と鏡の扉-」の大型イベントの実施や「キングダム -英雄の系譜-」の150万ダウンロードに伴うイベントや新機能追加などのゲーム内容の拡充に注力し、広告事業において、引き続き広告主・媒体先の顧客数拡大に注力していくことが挙げられます。

なお、コンテンツ事業においては、第4四半期会計期間中に事業譲渡を予定しているため、一部期間において売上の発生を見込んでおりません。詳細につきましては、本日開示しております「事業譲渡の基本合意に関するお知らせ」をご参照ください。

また、モバイルゲーム事業において、翌期での売上寄与を見込んだ先行投資として「ワールドクロスサガ -時と少女と鏡の扉-」に関する大規模プロモーションを予定しております。加えて新規タイトルの開発費の発生や各セグメントでの開発・運用・拡販のための人員体制強化による費用増を予定しており、利益項目に関しては赤字を見込んでおります。

当社グループの事業を取り巻く環境が急速に変化しており、事業の成長速度を予測することが難しいことから、信頼性の高い通期の業績予想を算出することが困難なため、四半期毎に翌四半期の業績予想を公表させていただきます。

平成28年9月期通期業績予想（平成27年10月1日～平成28年9月30日）

売上高	3,283百万円（前年同期比6.9%増）
営業利益	△356百万円（前年同期は4百万円の営業利益）
経常利益	△364百万円（前年同期は1百万円の経常損失）
親会社株主に帰属する当期純利益	△366百万円（前年同期は130百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第3四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,241,556	1,657,715
売掛金	391,976	379,661
仕掛品	1,654	73,910
貯蔵品	927	1,127
その他	71,513	268,291
流動資産合計	1,707,628	2,380,705
固定資産		
有形固定資産	8,459	47,262
無形固定資産		
のれん	88,257	50,761
その他	746	545
無形固定資産合計	89,004	51,307
投資その他の資産	89,281	101,934
固定資産合計	186,744	200,503
資産合計	1,894,373	2,581,209
負債の部		
流動負債		
買掛金	161,452	184,261
短期借入金	40,000	—
1年内返済予定の長期借入金	—	33,000
未払法人税等	34,093	4,269
賞与引当金	36,564	16,334
ポイント引当金	8,448	7,311
その他	109,838	186,549
流動負債合計	390,397	431,726
固定負債		
長期借入金	—	656,000
固定負債合計	—	656,000
負債合計	390,397	1,087,726
純資産の部		
株主資本		
資本金	563,900	563,900
資本剰余金	1,116,770	1,117,172
利益剰余金	△225,901	△237,586
自己株式	△25	△25
株主資本合計	1,454,743	1,443,461
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△7,672
その他の包括利益累計額合計	—	△7,672
新株予約権	286	2,872
非支配株主持分	48,946	54,822
純資産合計	1,503,976	1,493,483
負債純資産合計	1,894,373	2,581,209

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
売上高	2,358,119	2,257,920
売上原価	1,482,593	1,412,322
売上総利益	875,525	845,598
販売費及び一般管理費	900,137	834,981
営業利益又は営業損失(△)	△24,611	10,616
営業外収益		
受取利息	777	493
事業譲渡益	—	830
受取手数料	—	900
その他	307	121
営業外収益合計	1,084	2,345
営業外費用		
支払利息	94	2,285
株式上場関連費用	4,122	3,880
支払手数料	1,500	—
投資事業組合運用損	—	1,526
その他	826	246
営業外費用合計	6,542	7,938
経常利益又は経常損失(△)	△30,070	5,023
特別損失		
訴訟和解金	17,000	—
特別損失合計	17,000	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△47,070	5,023
法人税、住民税及び事業税	6,830	17,783
法人税等合計	6,830	17,783
四半期純損失(△)	△53,900	△12,760
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△1,075
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△53,900	△11,684

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純損失(△)	△53,900	△12,760
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△7,672
その他の包括利益合計	—	△7,672
四半期包括利益	△53,900	△20,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△53,900	△19,357
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1,075

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	1,146,783	905,267	305,926	2,357,977	142	2,358,119
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	8	—	8	△8	—
計	1,146,783	905,276	305,926	2,357,985	133	2,358,119
セグメント利益	88,438	47,097	10,457	145,993	△170,605	△24,611

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	145,993
のれんの償却額	△45,389
全社費用(注)	△125,215
四半期連結損益計算書の営業損失	△24,611

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	1,033,218	985,141	239,560	2,257,920	—	2,257,920
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,203	—	1,203	△1,203	—
計	1,033,218	986,345	239,560	2,259,124	△1,203	2,257,920
セグメント利益	115,833	22,365	28,567	166,767	△156,150	10,616

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	166,767
全社費用（注）	△156,150
四半期連結損益計算書の営業利益	10,616

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。